

2021年3月期 第2四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2020年11月12日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2021年3月期第2四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	21年3月期 1Q	21年3月期 2Q
出荷量 ¹ (QoQ)	1桁%台前半の 減少	20%台半ばの 増加 ²
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	1桁%台前半の 上昇	1桁%台後半の 下落

1. 記憶容量ベース

2. Solid State Storage Technology Corporation社のSSDに
使用された第三者のNAND型フラッシュメモリを含まず

- 売上・利益ともに当社予想の範囲内
- SSD向け出荷量は引き続き堅調に推移、スマートフォンの新機種向け出荷が寄与し、全体の出荷量は前四半期比で大きく増加
- 販売単価は、製品構成比の変化による影響もあり、4四半期ぶりに下落に転じた
- 2020年7月1日付で、台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業（Solid State Storage Technology Corporation社）の買収を完了し、当第2四半期から増収分を計上

製品開発・技術開発

- Ethernet接続型NVMe-oF™ 対応SSDのサンプル出荷（2020/9/23発表）

四日市工場 第7製造棟

- 3次元フラッシュメモリの生産能力の増強を目的に、第7製造棟を2021年春から建設することを決定、第1期分の竣工は、2022年春の予定（2020/10/29発表）

ハイライト (2/2)

市場動向及び見通し

- 新型コロナウイルスの感染再拡大や米中貿易摩擦によって需要が足元で弱含む中、フラッシュメモリの需給は緩む見通しであり、短期的には販売単価の下落が予想される
- 主に米国の輸出規制の影響によって全般に出荷量に下押し圧力が働く中で、次世代家庭用ゲーム機用SSD向けの出荷量は比較的堅調な見込み
- 中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 製造コストを過去のトレンドに沿って低減するべく取り組み、短期的な下振れ局面に対しては販管費のコントロールに努める

KIOXIA